

大会開催にあたって

実行委員長 合屋 十四秋（愛知教育大学 特別教授）



東海体育学会第 61 回大会を愛知教育大学で開催することになりました。前回当番校であった第 31 回大会（1983 年）以来です。昭和 45

年にここ刈谷キャンパスに移転統合し、50 有余年、教員養成を軸として教育研究に寄与、貢献しています。

わが保健体育講座は、初等および中等教育教員養成課程により最大で幼・小・中・高校の 4 種類の教員免許を取得できる学校教員養成の総合専門機関として機能しています。また、大学院では教育学研究科修士課程保健体育専攻に保健体育科教育学領域と保健体育科内容学領域を設け、教科専門並びに教育実践にかかわる研究能力を有する教員の育成を行っています。さらに、2012 年 4 月、愛知教育大学と静岡大学による共同大学院である、「教育学研究科 後期 3 年博士課程 共同教科開発学専攻」が開設され、保健体育講座もこれに関わっています。

本学の自然に恵まれたキャンパスにて東海体育学会の年次大会を開催できることをスタッフおよび大学院生一同、心から待ちわびております。

さて、学会プログラムのシンポジウムには、『これからのコーチングを考える』をテーマとしてジュニアからトップの選手まで様々な選手を対象に競技力を高めるために、我が国のスポーツコーチングはどのように前進すればいいのかを設定しました。3 名のシンポジストとフロアーとで活発なディスカッションを期待しております。また、一般発表、ポスター発表共に活発な意見交換や討議が行われ、会員相互の有意義な交流の場になることを望んでいます。

